

医療の質向上や生活者へのメリット創出を目指す 病院向けデジタル健康ソリューション 「CADA-BOX」

～多様なフォーマットに対応するシステム構築の裏側～

メディカル・データ・ビジョン株式会社
システム開発部 小野 誠志



会社紹介：メディカル・データ・ビジョン株式会社



生活者が、生涯を通じて自身の医療・健康情報を把握できる社会
それらの情報をもとに、自身で医療・健康分野のサービスを選択できる社会

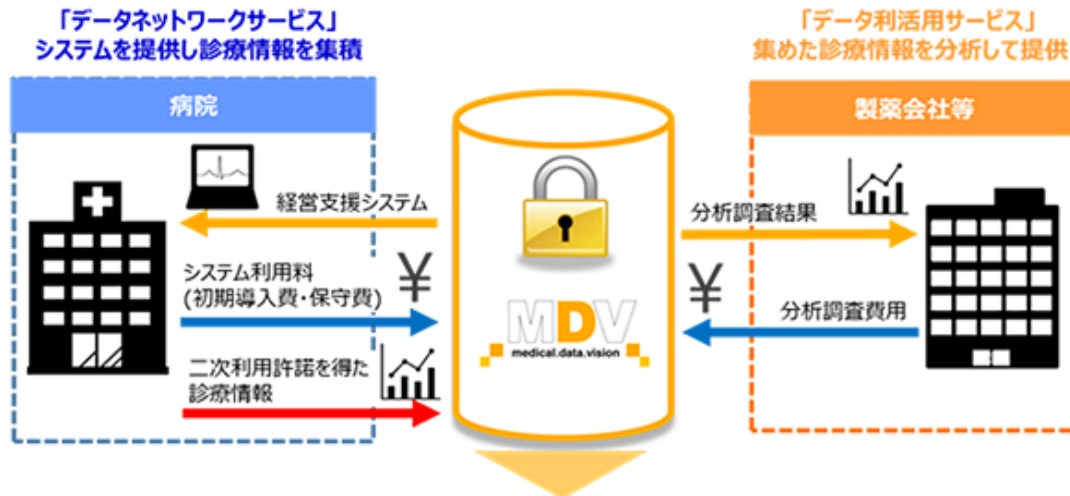
メディカル・データ・ビジョン株式会社

設立：2003年 8月 20日

資本金：9億9,266万円（2018年5月末現在）

代表者：代表取締役社長 岩崎 博之

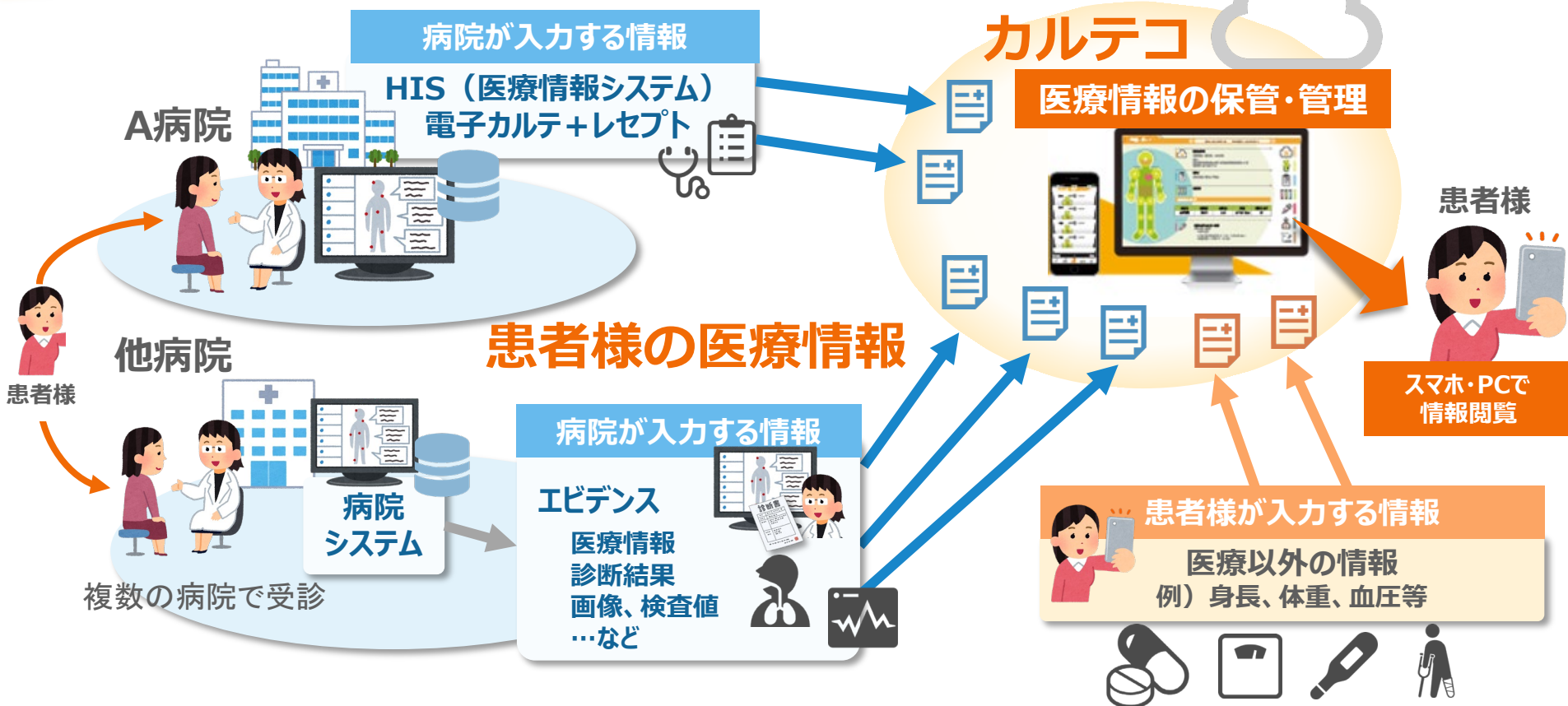
従業員：連結212名（2017年12月末現在）



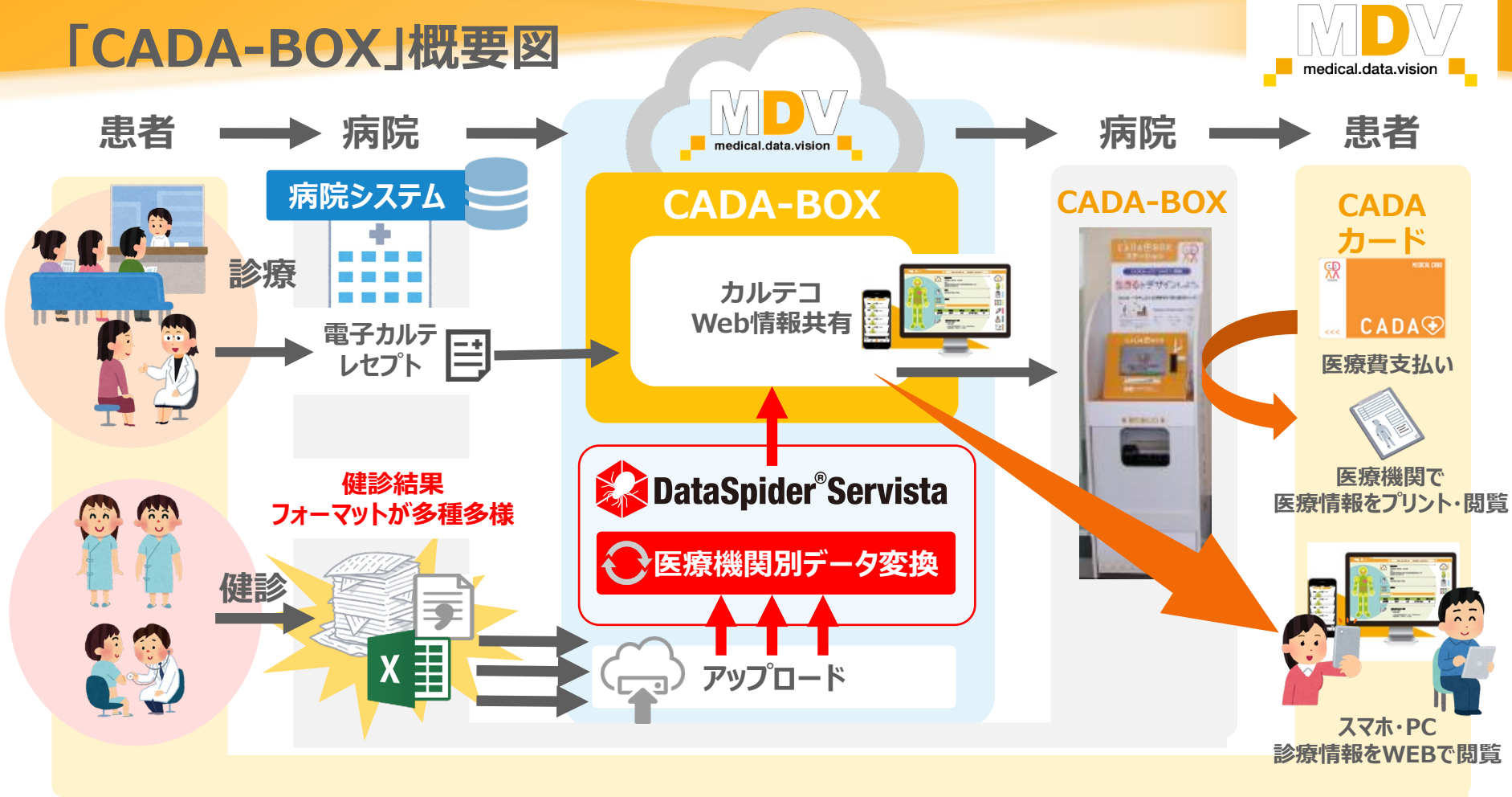
国民の7人に1人に相当する規模の医療ビッグデータを保有

※医療機関から二次利用許諾を得た情報のみ

医療クラウド 新サービス「CADA-BOX」のご紹介



「CADA-BOX」概要図



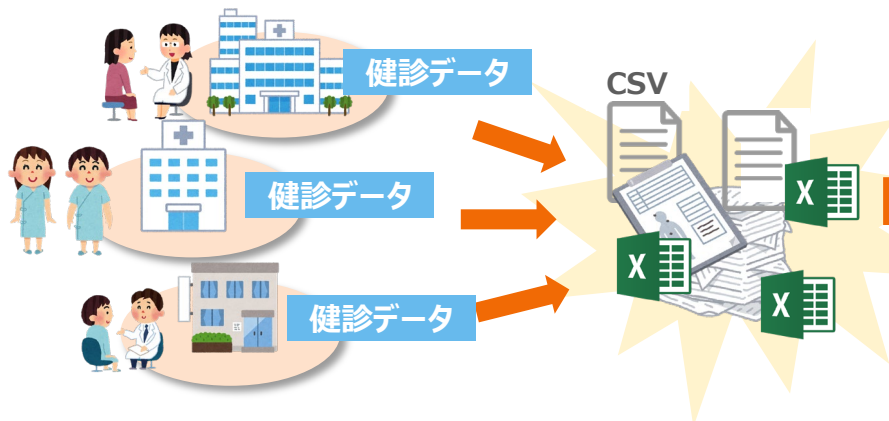
■ ビジネス展開に向けたシステム課題 ■

- **ビジネス企画時の想定**
標準形式の存在調査
当社指定フォーマットでの提供を医療機関に打診
- **結果**
標準形式がない
当社指定フォーマットで提出を医療機関側で開発すると
高額、時間もかかる
- **結論**
医療機関側の負担なしに、サービスを開始させる為には
当社内で変換ツールを開発する必要があった

課題：バラバラなフォーマットの健診データの取り込み、変換

◇ 健診データ ◇

医療機関毎にフォーマットがバラバラ



◆スクラッチ開発では・・・◆
医療機関毎にバラバラなフォーマット
データの取込・変換の仕組みをスクラッチ開発
するのは人員増、開発工数もかかる

◇ CADA-BOX ◇

取り込み可能なデータへ変換が必要



CADA-BOX

「個別開発なし」で
データ取り込み・加工・変換
できる「仕組み」が欲しい・・・

■ 検討・導入 ■

■ 病院毎に発生する「データマッピング作業」を 習得コストが少ない（敷居が低い）システムで切り出す

CADA-BOX導入病院ごとに、
標準フォーマットに変換しなければ、
データの二次利用ができない

変換作業自体をプログラマーでなくても
行える使い勝手のいいツールが欲しい

健診システムからデータを取得 → 「CADA-BOX」フォーマットへ変換するための
データ基盤ツールを検討

■ DataSpiderを選んだ理由 ■

DataSpiderを選んだ理由

■ 使い勝手の良さと豊富なアダプタ、業界に精通している実績を評価

- 取り扱い可能なデータの種類の豊富
- 開発以外の人材でも触れられる簡便な仕組み
- 当社のセキュアな医療クラウドプラットフォームで動かせる
- 操作体験ができるハンズオンセミナー



※2018年6月 日経BPコンサルティング調べ

データ基盤ツール → **DataSpider** を採用！

■ 導入後の効果 ■

**1カ月かからずサービス実装
事業の推進に大きく貢献**

■ 1カ月かからずサービス実装、事業推進に大きく貢献

● CADA-BOXそのものを早期に稼働させることにも役立っている

→健診データを先行して送ってもらい、患者向けに病院側のサービス提供時期を早め、病院として患者向けのサービスをいち早く提供したい要望に応える

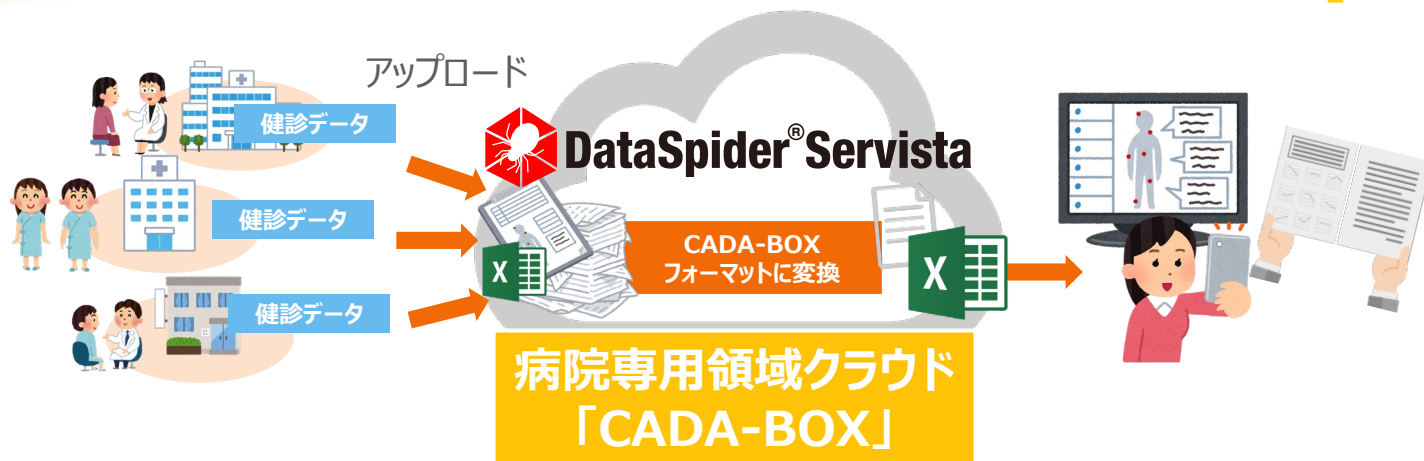
● シンプルな操作で、運用は導入担当部門だけで行える

→開発ユニットは最小限のリソースで新たな病院への展開が可能

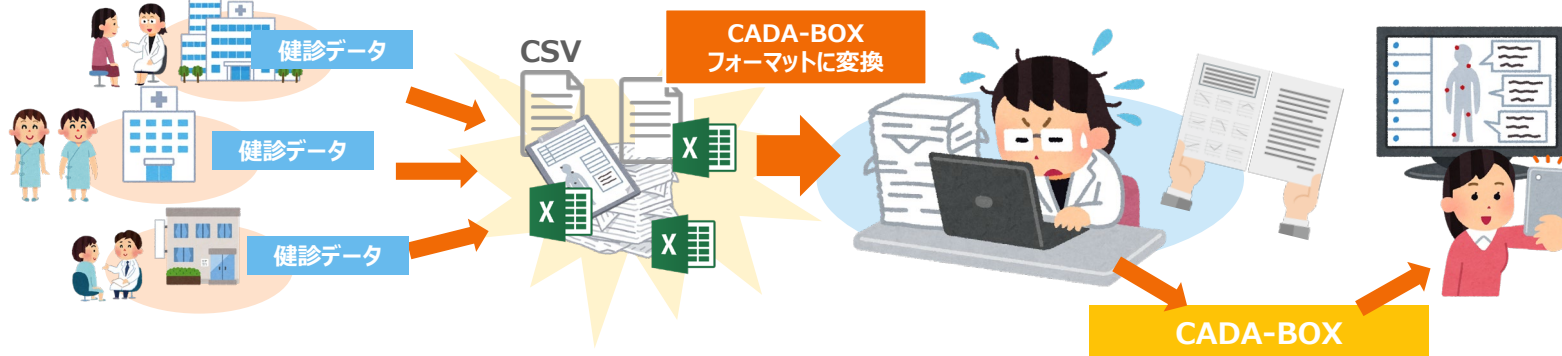
● 「CSV」や「Excel」フォーマット毎の取込・変換パターン処理は開発側で事前に作成、健診データ構造の違いに合わせたマッピング定義から導入担当部門で実施

導入後の効果（概要図）

導入後



導入前



■ 今後の展開 ■

- データ変換作業・処理を、DataSpiderに統合
- DataSpiderとデータクレンジングシステムとの連携による
二次利用性のさらなる向上

ご清聴ありがとうございました

